



2024年(令和6年)6月30日

発行: 東京都立大学 附属高等学校同窓会 〒152-0023 東京都目黒区八雲 1-1-2 桜修館中等教育学校内 編集: 同窓会報編集委員会

# 10月26日(土)定期総会を開催 ご出席をお待ちしています。

来る10月26日(土)に、同窓会の定期総会を開催します。3年に1回の定期総会ですが、前回は新型コロナウイルスの影響で1年遅れの開催でしたので、今回は2年後の開催になりました。会員の皆さんから様々なご意見をいただき、今後の同窓会活動に生かしていきます。今回は12年ぶりに同窓会の役員改選も議題となっております。

また総会終了後に、今年こそ懇親会を行おうと思っております。多数の会員の方々のご出席をお待ちしています。

日時: 10月26日(土)  
受付13時30分  
開会14時  
懇親会16時より  
会場: 桜修館中等教育学校 2階「多目的ホール」

(懇親会参加費3千円  
会場は当日ご案内)

## 1 2年間の活動報告

議事予定  
会報の発行  
会員名簿の管理  
ホームページの管理  
ホームカミングデー  
記念祭への取り組み  
八雲が丘賞

## 5 その他

八雲が丘校友会  
その他  
2 会計報告  
同窓会の財政状況  
会計決算報告  
3 役員改選  
新役員承認、紹介  
4 今後の活動方針  
継続する事業  
新たな事業の展開  
桜修館同窓会との連携  
府立高校創立百年記念  
事業の具体化

なるべく多く会員の皆さんから発言をいただきたいと思っております。質問、問題提起、アイデアの提供など、大いに歓迎します。特に、同窓会活動をさらに前進させるようなご意見をいただければと思っております。

**総会出席の申し込み**  
総会に出席される方は、同封のハガキに、住所・郵便番号・氏名・卒業期・懇親会出席の有無をご記入いただき、10月5日までにご返送ください。  
切手は不要です。

## 母校の記念祭に来ませんか

今年の第76回記念祭は、9月7日(日)・8日(土)の両日です。去年から来校大歓迎となりました。ひと休みできる同窓会ルーム「八雲が丘の集い」もあります。ぜひおいでください。

## 今年のホームカミングデー

2、3面の特集面でもお知らせしていますが、第8回「八雲が丘ホームカミングデー」を11月30日(土)に開催いたします。今回の対象は、第24期、第49期、桜修館第3期の皆さんです。同期の方をお誘いあわせのよう多数の参加をお待ちしています。



第6回



第5回



第4回ホームカミングデー

**INDEX**

- 1 同窓会定期総会のご案内  
日時・会場・議事予定  
総会出席の申し込み方法  
第8回ホームカミングデーのご案内
- 2・3 第7回「八雲が丘ホームカミングデー」特集  
集まれ48期!  
石井由香・小俣桃子・三間容子・福長綾子
- 4 府立高から都大附、そして桜修館へ引き継がれるもの  
恩師 杉本 悦郎先生
- 5 都大附の体育館  
恩師 廣瀬 允人先生  
男子バスケット部の桃金戦復活  
水島鮎子・佐藤貴一・三沢忍・梅村智司
- 6 探究的な学びの深化を  
桜修館校長 石崎 規生先生  
着任のご挨拶  
副校長 吉識 晋二先生  
副校長 島田 功一郎先生
- 7 第11回「八雲が丘賞」は  
陸上競技部が受賞
- 8・9 第75回記念祭グラフィック特集  
ポスター・勝手に選んだ28選
- 10 高校時代の親友と恩師  
17期・嘉手納知洋
- 11 追悼 原康夫さん  
30期・瀧野日出雄
- 12・13 同期会・クラス会レポート  
第4期「四回生の集い」  
第11期同期会  
第16期G組クラス会  
第22期D組クラス会  
第19期F組クラス会
- 14・15 事務局インフォメーション  
創立100周年記念事業・寄付募集  
2023年度事業・決算報告
- 16 年会費納入のお願い、計報  
同窓会への連絡方法・編集後記



50年の時を超えて、23期生が元気な顔をそろえました



桜修館2期生と鈴木幸恵先生。旧制時代の歌は初耳かな

などが飛び出し、笑いと拍手でこれまた大変盛り上がりしました。  
全体の「歓迎式典」の後は、各期に分かれて校内見学に出発。毎回のことながら、桜修館の先生には休日にもかかわらず案内役をお願いし、ご協力をいただきました。23期生は全く様変わりした八雲が丘に驚き、学校の新しい設備に感心していました。48期生は記憶を辿って25年前と変わらない場所

を懐かしく思い出していましたが、桜修館2期生は、卒業後10年しか経っていないのですが、久しぶりの母校に想いを新たにしたいに違いないとあります。  
残念ながら全員での懇親会は開催できませんでしたが、同期会が開かれた期もあり、第7回八雲が丘ホームカミングデーは楽しい一日となりました。  
第3回までは抽選なしで使えた「めぐろパーシモン

ホール」の小ホールが、抽選で当選しなければ使えなくなると、会場問題では毎回桜修館に協力を頼むことになるという状況です。今年もまた多目的ホールでの開催となります。  
今年の第8回八雲が丘ホームカミングデーは、11月30日(土)に開催の予定です。対象の第24期、第49期、桜修館第3期の皆さんには、個別にご連絡を差し上げます。

②2人(広瀬&杉本)とも自分たちも教えられるという理由で決めた。  
当時、修学旅行で行きたところは何となくというアンケートがあったのですが、結果は何の意味もなく予約されていたことが判明しました!!  
修学旅行自体良い思い出なので笑いますが、その話をきっかけに、部屋移動して廊下に正座させられた子がいたことや見つけからずセーフだった自分たちのことを思い出しました。  
記念祭の後夜祭で、花火師の免許も持っている広瀬先生が大玉の打ち上げ花火を上げてくださったときのオフレコ話も聞け、懐かしさと笑いで溢れました。あんな都会の住宅街でステキな花火を見ることができ、今でもみんなの心に残る思い出となっています。  
杉本先生は、生徒からの人気も高く、10代の私たちにとってはとても大人な先生だと感じていました。が……受け持ってくださいた当時は今の私たちよりも10歳も若く、それを知った同

窓会の日、とても衝撃であり自分たちが大人になったと時の流れを感じました。(私たちも少しは真緑ついたかしら笑)  
ホームカミングデーには参加できなかったメンバーも2次会には多く参加して



もらえなかったらどうしようかと不安がある人もいるかと思えます。でも、びっくりするくらいわかるもので、会った1分後には高校時代に戻り、すっかり「あの頃」のみななでした。地元を離れた子や当日仕事があった子、予定があって行けないと言っていた子もなんとか予定を調整してくれ、懐かしい顔が勢揃いしました。卒業アルバムを持って参加してくれた子もいて、アルバムを見ながら当時を懐かしみ、帰りのみんなは来た時の何割増かキラキラして帰って行きました。この経験は後輩たちにもぜひ味わってもらいたいと心底思っていました。  
これをきっかけにまたみんなと集まることを約束し笑顔で別れることができました。  
このような会をずっと続けてきてくださった諸先輩方に感謝の気持ちでいっぱい。本当にありがとうございます。  
48期生の皆さん、また会いましょう!



第7回「八雲が丘ホームカミングデー」 第23期、第48期、桜修館第2期が結集

第7回「八雲が丘ホームカミングデー」は、昨年11月11日の土曜日に、桜修館・多目的ホールで盛大に開かれました。一昨年の第6回は3年ぶりの開催で、7学年が一堂に集まりましたが、今回は卒業後50年の23期生、25年の48期生と卒業後10年の桜修館2期生の3つの期が対象でした。  
この日、多目的ホールの「歓迎式典」に参加したのは、23期生26名、48期生25名、桜修館2期生17名で、卒業生が合計68名。来賓として48期担任の恩師・広瀬允人先生、杉本悦郎先生、桜修館2期担任の鈴木幸恵先生が参加され、同窓会事務局もあわせると総勢約90名のホームカミングデーとなりました。  
同窓会理事長、桜修館副校長、桜修館PTA副会長の歓迎の挨拶の後、恒例の各学年によるスライドやビデオを上映。昔の在校時代を思い出して、大いに盛り上がりました。来賓の先生のお話では、ここで初めて聞く「秘話」や今だから明らかにできるオフレコ話

『ホームカミングデー』を知ったのは、2023年の4月でした。  
前年の幹事の方から繋がりのある48期生に連絡が行き、いろいろな角度から回りまわって私たち4人に幹事が決定しました。  
卒業後はそれぞれ集まりはありましたが、同窓会的な大きな集まりはなかったもので、お話が来た時にはこんな会があるのかと驚きました。  
47期幹事の先輩とも高校時代はそれほど関わりがありませんでしたが、母校が一緒ということで幹事をきっかけに仲良く飲んだり、連絡を取り合ったり。卒業後疎遠だった同級生もその場ですぐに昔に戻ったりと、幹事の仕事を集まっているのに、昔話に花を咲かせてなかなか話が前に進まず。一番苦労したのは、参加メンバーを集めることでした。卒業当時はボケヘル全

盛期、安室世代(笑)、携帯なし、LINEなし。とにかく連絡手段には苦労しました。それぞれの人脈を駆使して連絡を取り合い、もちろん葉書を見て参加してくれたメンバーもいました。正直大変でした。そこからLINEでメンバーを広げ、繋がりが増やし、最近近況を伝える場にもなっています。  
あとは思い出の動画作成に苦戦しました。写真を集めるまでは出来たのですが、動画作成が難しく焦りました。そんな時、仕事が忙しいにも関わらず優しく手を差し伸べ、1日で素晴らしい作品を仕上げてくださいました。同級生がいて、本当に感謝しかありませんでした。  
幹事は大変でしたが、みんなのお

かげでなんとか当日を迎えられました。  
ホームカミングデー当日、マイクを持たせたらこの子じゃない!という石井が、当時を振り返るコーナーで思い出をいろいろ振り返ったのですが、「なぜ修学旅行がスキーだったのか」を話題に。みんなの長年の疑問でしたが、来賓の広瀬先生と杉本先生が  
①当時スキー好きの先生がどうしても譲らなかった



杉本先生、廣瀬先生と一緒に、48期生大集合

**集まれ48期!**  
石井由香・小俣桃子  
三間容子・福長綾子

懐かしより

府立高から都大附、そして桜修館へ引き継がれるもの

杉本悦郎(数学・1994年〜2009年)

令和5年11月11日(土)、第7回「八雲が丘ホームカミングデー」が開催され、48期生の学年主任だった廣瀬允人先生にもお会いすることができました。今の時代では実施できない後夜祭のキャンファイヤーや打ち上げ花火などの催しや、蔵王スキー修学旅行決定の顛末など、卒業生の皆さんと昔話を花を咲かせ、楽しい時間を過ごすことができました。

私が東京都立大附属高等学校(以下、「都大附」)に着任したのは、平成6年4月、ポケベルが全盛期を迎える頃でした。その後、48期53期の担任を務め、平成18年に開校した東京都立桜修館中等教育学校(以下、「桜修館」)との兼務となり、平成21年3月までの15年間に在籍しました。

この在籍期間に、少子化や生徒の多様化などの都立高校の課題を解決することを目指した都立高校改革推

進計画(平成9年)が示されました。「第二次実施計画」(平成11年)において、都大附が新しいタイプの学校として中高一貫教育校に改編することが示され、「新たな実施計画」(平成14年)では公立学校における中等教育の複線化として新たに9校を加えた計画が発表されました。平成17年度より、都内の10校が順次開校することとなりましたが、最も滞りなく移行できた学校は都大附・桜修館であると言われてい

ます。開設準備の業務に当たった7名のうち都大附に縁のある4名の教員が担っていたことも理由の一つであり、母校校との引継ぎも順調に進めることができたのではないのでしょうか。

校章・校旗・校歌

桜修館には、都大附から校章・校旗、校歌が継承され、府立高等学校(旧制)以下「府立高」以来のものが使わ

れています。

平成28年7月発行の同窓会報5・6ページに「桜に旭日校章のあれこれ」と紹介された中の③校旗から採られた平面の基本校章と書かれていたものは、校旗を基に松永学先生(数学)が作成したものです。体育館の新築の際に、「文字幕(水引幕・舞台最前部の上部に吊られる横長の幕)の真ん中に描かれています。



「自由と自治」

桜修館は、府立高から「自由と自治」の校風を引き継ぐことでも、校訓として「真理の探究」を掲げています。「自由とは何か」「自由と規律」などについて、時には教員から生徒へ問題提起され、また時には生徒同士で議論するなど、時代時代で話題

としてきました。教員も生徒も「自由」について考え続けることをとても大切にしていました。

そして、もう一つ大切にしていたのが「自治」です。委員会を定例で開催できるように、水曜日を委員会時間として保持してきたのも都大附の特色でした。特に学校行事では、まず実行委員会幹部を募り、担当班に分かれて班長を中心に企画を行い、そして運営部の生徒が実施するという文字通り生徒が主体的に企画・運営する体制を維持・継続してきた点は注目に値します。加えて、行事担当の教員と実行委員会幹部とで連絡協議会(通称連絡レッキョウ)という会議を行っていました。そこでは、互いに対等の立場で行事の成功に向けて意見を申し合いました。連絡は生徒の自治を育む仕組みにもなっていたと思います。桜修館の開校後は、弁当・桜修館の生徒は給食に当たるランチボックス(ス)を持ち寄り、参加するようになりまし

た。中高生と教員が食事をしながら、学

校行事について話し合っている様子はちょっと素敵な光景でした。

校行事については話し合っている様子はちょっと素敵な光景でした。

の生徒によって、CM・クラマチなどと呼ばれてきました。現在のようないくつかの団体競技と球技とで構成される形態となったのは滝本寛先生(保健)が生徒部の担当者になったところからです。学校週5日制が、月1回、月2回完全実施と段階的に実施されていく中、授業時間確保の観点から、3日間実施する意義や必要性など、職員間で議論となりました。しかし、準備や予行で授業時間を使うことなく、放課後や昼休みを活用する等、生徒の創意工夫によって三日開催が維持されたのは大きな成果だと思います。

合唱コンクールは、学校行事の中でも新しくできたものです。平成14年度当時、生徒部の森慎一郎先生(国語)の提案と風力によって始まりました。最初はモチベーションの低いクラスもありましたが、三大行事と呼ばれるほど成熟した行事の一つとなりました。

今後の桜修館の益々の発展を祈念するとともに、希望に燃ゆる若人を是非とも応援してまいります。

懐かしより

都大附の体育館

廣瀬允人(体育・1987年〜2001年) (42期・48期・52期担任)

体育の教員が勤務校の体育館建設に関わることは珍しいことではない。ただ私の場合は例外かもしれない。5校の勤務校のうち、3校で体育館を建てたからである。教員になりたての3年目、最初の体育館を建てた。この学校は敷地の狭い学校で体育館のための空き地などなかったため、校舎の上ののせる「ウナギの寝床」のような体育館をデザインした。2校目の学校では、老朽化した体育館の建て替えだった。「ドラム缶のお化け」と呼ばれるが、天井の高さにこだわった2階建てである。3校目が都大附であるが、「都大附でなければ建たない普通科の体育館」だと思う。都立大学の長倉教授(建築学)の指導を受けながら図面を引いた。総合型の体育館で3層構造になっている。「ドーム屋根」ははじめてか。アリーナが2面ある。トローニ



ングルームにはアメリカから取り寄せたマシンがセッティングされている。プールの屋根が開閉式で普通の学校よりプールの深さが20cm深い。道場の畳の下はスプリングが入っている。車いす対応のためエレベーターやリフトがある。太陽熱温水でシャワーにお湯が出る。カーペット敷の講義室がある。なな、あちこちにこだわることができた。それは「附属」からの特権でもあった。それでも不満はある。それは全体の広さである。大学が南大沢に移転したあとの跡地利用計画で、高校の校舎

や体育館、図書館などの新設を考えていた。そこに住宅局から「500戸余りの都営住宅を建てたい」という申し入れで3分の1が削られ、さらに目黒区が「文化施設を建てたい」と言い出し、後押しする都会議員が「1学級当たり1千平米あればいい」などと言いつつ、結局6万4千平米が2万8千5百平米まで削られてしまった。そのため体育館の大きさが半分になってしまった。「高大一貫」あるいは「中高一貫」の学校になることを考えようとも広い機能的な体育館が必要だった。化学の実験台が中学1年生と高校3年生で同じ高さであったいはずがない。体育館に限らず校舎の中も考えることは必要だった。しかし校地が狭くなったことで建物に体育館の新設だけしかできなかった。自慢の体育館ではあるが悔いの残る体育館でもある。

男子バスケット部の桃金戦復活

45期 水島結子、46期 佐藤貴一・三沢忍 47期 梅村智司

水島：昨年11月に男子バスケットOBで「復活！桃金戦」を約30年ぶりに開催しました。今日は座談会形式で振り返ります。

佐藤：すごく楽しかったです。年は一つしか違わないのに、先輩は先輩で後輩は後輩。気がついていたら高校時代の部活の風景にタイム



スリップしていました。まずは、ご尽力頂いた同窓会理事さんと桜修館に感謝を伝えたいです。

梅村：先輩と会えて本当に嬉しかったです。当時の桃金戦は、桃太郎チームと金太郎チームに分かれて現役と引退する先輩たち、更にOBを招いて試合をする会でしたが、今回は浦島太郎チームとマネージャーによるかぐや姫チームも編成しました。

三沢：きっかけは一昨年の3年分まとめて開催されたホームカミングデーでした。久しぶりに先輩たちにお会いできて、嬉しかったです。あの再会があったから、改めて先輩や後輩と繋がることできたんですよね。

水島：あのホームカミングデーは大きかったですね。「復活！桃金戦」には、43期から47期と当時のコーチにもご参加頂きました。総勢28名が集まった奇跡的な一日でした。

梅村：あれ以来、バスケットの練習を始めています。次回に向けて、みんな練習会もしましょう。

三沢：クラスマッチみたいに、オリジナルシャツを作りました。次はオリジナルタオルを作ろうかと思っています。楽しみです。

佐藤：この部活の繋がりを今すごく大事に感じています。今年もぜひ開催したいです。桜修館のバスケット部の現役生の応援もしたいですね。

水島：部活って青春そのものだから、いつになっても大事にしたいと思っています。多くの方のご協力で実現するものなので、今後とも何卒よろしくお願ひします。

# 探究的な学びの深化を

都立校修館中等教育学校校長 石崎規生



日頃より都立校修館中等教育学校の教育活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

校修館は、「6年間の一貫した教育活動の中で、世界中の日本人としてのアイデンティティをもって国際社会を担う人材を育成する学校」をスクールミッションに掲げ、今年度も、国際理解教育の充実、探究的な学びの深化、理数教育の充実を特色ある教育活動の柱としながら取り組んで参ります。コロナの影響も影響を、昨年度は、オーストラリア海外語学研修に加え、本校としては初めての、台湾海外修学旅行とカリフォルニア大学バークレー校でのリーダーシップ育成

研修を実施したところです。さて、この3月に卒業した13期生は、東京大学2人、東京工業大学1人、一橋大学1人をはじめ、12人が総合型選抜・学校推薦型選抜で国立大学に合格しました。もちろん、国立大学での総合型選抜等では大学入学共通テストを課す場合が多く、高い学力が要求されていることは言うまでもありませんが、それに加えて主体的に探究的な学びに取り組むことも必要で、最近の総合型選抜等は決して簡単に合格できるものではありません。総合型選抜等だけでなく、一般選抜で希望の進路を実現した生徒も多く、全体としては、卒業生の18%にあたる27人が「難関国立大学(東大、京大、東工大、一橋大、国立医学科)」に合格し、42%にあたる62人が国立大学に合格しました。私立大学では、延べ192人が「難関私

立大学(早慶上理)」に合格するなど、希望の進路を実現できた生徒が多くなりました。今年度は後期日程で、京都大、一橋大、千葉大医学部といった難関国立大学に合格するなど、最後まであきらめずに進路実現に向けて頑張った生徒が多かったことも特徴です。

また、今春の本校への志願倍率は、4.41倍(男子3.60倍、女子5.21倍)へと減少しました。とは言え、都立中高一貫校全体が倍率低下する中で、2番目の高倍率に留まっています。昭和4年の府立高等学校開校以来95年を数え、開校百周年が見えてきました。3校の卒業生の皆様が一体となり、本校に受け継がれた伝統を繋いでいかれることを願っております。どうぞ皆様のご理解とご支援をお願いいたします。末筆になりますが、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

4月1日に後期課程の副校長として着任いたしました吉識(よしき)です。来年度には校修館の20期生が入学し、さらに令和11年度(2029年度)には旧制府立高等学校から都立

## 着任のご挨拶



後期課程担当副校長 吉識晋一

千代田区立九段中等教育学校から異動してまいりました、副校長の島田功一郎です。前期課程を担当いたします。九段中等教育学校には、副校長として4年間務めました。それ以前は教員として都立三鷹中等教育学校に

## 着任のご挨拶



前期課程担当副校長 島田功一郎

8年間在籍しましたので、中等教育学校での教育には10年以上携わっていることになりました。本校に着任してまだ間もないですが、授業で意見交換したり、クラスマッチに向けて準備したりしている様子を見てみると、本校の生徒は積極的、主体的に活動しているなあと感じました。今後の学校生活でもそのような場面をたくさん見

られると期待しています。私の専門は地理なので、地域巡りの行事や国際交流活動などでの生徒の活躍も楽しみにしています。また、休日に本校周辺を散歩してみました。本校の所在する「八雲が丘」は、閑静な住宅街が広がり、隣には歴史ある社寺も多く、学習環境として恵まれていると思えました。このような場で行われる特色ある教育活動を、様々な形で支えていきたいと思えます。今後とも、どうぞよろしくお願いたします。

企画室へ部活動や行事に必要な物品を購入するための「支出承認書」を提出し、詳細を詰めていく姿です。さすが「自由と自治」を掲げ自主的に活動する本校の生徒と感動しました。そのような生徒諸君とこれから一緒に教育活動を展開していくのがとても楽しみです。微力ながら校修館を支えられるよう尽力して参りますので、どうぞよろしくお願いたします。



# 第11回「八雲が丘賞」は 陸上競技部が受賞です



11回目を数える「八雲が丘賞」は、陸上競技部が受賞しました。運動部としては、第7回の前期サッカー部、前期女子バスケットボール部(奨励賞)に続く3回

ル部(奨励賞)に続く3回目目の受賞です。このところ陸上競技部の活躍には目を見張るものがあります。例えば一昨年の



第49回全日本中学校陸上競技選手権大会には、男子4種競技で出場を果たしています。ちなみに中学の4種競技は、100mハードル、砲丸投、走高跳、400m走の4種です。

しかし、表彰状にもあるとおり、新制になってからは、八雲が丘から陸上競技で全国大会に出場する選手が出ることは、とても考えられなかったのです。

女子の活躍も目覚ましく、東京都の中学校陸上競技大会で、学校対抗女子3位になるなどの実績をあげています。東京都の西部地区大会では、走幅跳、短距離走、4×100mリレーなどはトップクラスです。

## 八雲が丘賞

東京都立校修館中等教育学校 陸上競技部のみなさん

近年の校修館陸上競技部の活躍には目覚ましいものがあります。特に昨年から今年にかけて東京都および関東の中学校陸上競技大会で好成績をあげ、さらにかつては考えられなかった八雲が丘から全国大会に出場する選手が出るなどの実績を残しました。こうした好成績と共に陸上競技部の良さは明るい雰囲気の中での切磋琢磨という部活動の質の高さにあります。皆さんの部活動の充実と更なる躍進に期待を込め、ここに第11回「八雲が丘賞」を贈ります。

2023年9月11日

東京都立大学附属高等学校同窓会 理事長 穴戸 迪武

### 「八雲が丘賞」規定

- 趣旨**  
この賞は、東京都立校修館中等教育学校の生徒による優れた部活動、課外活動に対して、東京都立大学附属高等学校同窓会から贈られるものです。
- 賞と対象期間**  
賞の対象期間は、4月から次年3月までの1年間とし、「優秀賞」および「奨励賞」の二つを設定します。2年以上にわたって顕著な実績を上げた活動に対して「大賞」を贈ることがあります。賞は、記念品または同等金額の活動費支援とします。
- 基準**  
賞の選考基準は以下によります。  
①年間を通じて継続的に活動を展開し、十分な実績を上げたもの  
②前年度に比して活動の内容に顕著な向上が見られたもの  
③対外試合、コンクールなどで優秀な成績を上げたもの  
④その他校修館生徒にふさわしい優れた活動を行ったもの
- 選考**  
対象となる活動について校修館中等教育学校の推薦をうけ、都大附高同窓会理事会において決定します。
- 賞の贈呈**  
前年度の受賞活動に対し、原則として次年度記念祭の期間中に表彰し、賞の贈呈を行います。



気合を入れて作るタテカン



同窓会ルーム「八雲が丘の集い」



人気のTポイント前演奏会



退場門

今年の記念祭は  
9月7日(土)、  
9月8日(日)です  
ぜひ  
おいでください

唱しました。かつて多くの旧制府立卒業生が参加したこのイベントも、残念ながら昨年は都大附高卒業生だけでした。  
桜修館の現役生は、中学1年生から高校3年生(6年生)まで24クラスの他に、部活を中心とする各団体が多彩な取り組みを披露していました。第75回記念祭のテーマは「世界旅行」。「こうぼっぼ」というオリジナルキャラクターも登場、活躍していました。



6B劇  
「帝一の國」



6A劇  
「賭博黙示録カイジ」



5Dイベント  
「ここにはカギが隠されています」



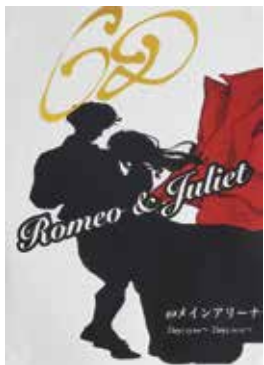
5C模擬店  
「うちのわっふる わんだふる」



5Bイベント  
「上空2万マイル」



科学部イベント  
「科学による科学のための展覧会」



6D劇  
「ロミオとジュリエット」



6C劇  
「サマータイムマンブルース」



写真部展示  
「日常と非日常」



美術部展示  
「旅する絵美展」



美術部展示  
「旅する絵美展」



日本文化部茶道班模擬店  
「桜庵柿の木茶会」



図書委員イベント  
「古本市」



名物Tポイントの垂れ幕



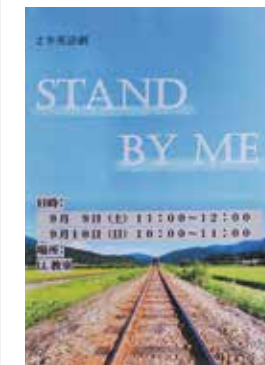
記念祭プログラム



入場門

75回  
記念祭  
特集  
グラフィック

昨年の9月9日(土)、10日(日)の二日間、第75回記念祭が開催されました。この記念祭の回数もまた都大附高と桜修館のつながりを示す象徴です。桜修館は2006年の開校から17年余しか経っていないから、第75回は、新制都大附高の第1回からの通算の数字なのです。  
昨年、コロナ感染症が5類になったことを受け、第75回の記念祭は、フルバージョンで開催されました。外部からの見学者も多数来校され、校内は久しぶりにぎわっていました。  
同窓会は、例年通り同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展。旧制府立高以来の歴史的資料や写真の展示、94年間の歴史年表の掲出、校歌・学生歌・寮歌・記念祭歌のDVD終日放映を行いました。  
10日の日曜には、一昨年コロナ感染症を警戒して実施できなかった合唱イベントも行いました。例年より多くの卒業生が集まり、学生歌や寮歌、記念祭歌を熱唱しました。



2年英語劇  
「STAND BY ME」



1D展示  
「OAL 食べ物ツアー」



1B展示  
「OAL 世界のゲームツアー」



1A展示  
「OAL 世界の建物ツアー」



1A展示  
「OALの建物ツアー」



3B劇  
「コンフィデンスマン」



3A劇  
「桃太郎は双子でした」



2年モノクローム班展示  
「回転」



2年プラネタリウム班展示  
「漆黒の惑星」



2年ダンス班イベント  
「Let'sだダダンス」



5A模擬店  
「なます亭」



4Dイベント  
「格付け～月とすっぽんと私～」



4B模擬店  
「キャラメルかおるPONPON」



3D劇  
「齊木楠雄の謎」



3C劇  
「しっとり帝国漂流記」

寄稿

高校時代の親友と恩師

嘉手納知洋・17期

私は名前からすると沖縄だが、生まれも育ちも新宿歌舞伎町で、戦後間もなく沖縄料理店を経営する両親に育てられた。今ではあの飲食店が建ち並ぶ場所に一般の住居とは信じがたい話だが、最寄りの小学校、中学校に通う幼な友達が何人も近くに住んでいた。

60年前に現在の高校(旧都立大学附属高校)に入学してすぐに二人の親友ができた。その二人はもう他界して永遠に会うことができないものの、今でも私の心には彼らが生き続けている。この二人と英語担当の恩師を中心に高校時代の思い出を振り返りたい。

一人目は「生田昭安」君といい、高校の入学当初は丸坊主で謙厳実直、極めて頭脳明晰で書道が上手、とても軽口の冗談など通じない印象だった。生田君の生まれ故郷は栃木県那須町の黒田原で、「普門院」とい

うお寺の住職の長男だった。ある日体育の授業の最中だったか、二人だけで話す機会があった。その彼がいきなり「嘉手納君の好きなタイプの女子はクラスの誰にいますか」と唐突に尋ねてきたので面食らった記憶がある。女性にはまったく興味がないと硬派に見えた彼の質問だったから。戸惑いながらも軟派の私が返答に窮している時、彼から「あの可愛い女子はどうか？ 一番人気があると思うじゃないか？」いや驚いたのなんの、彼との親密度が急速に増した瞬間が蘇る。しかし実際には真面目一方で勉学に励む彼と同じクラスだったのはその一年だけで、その後隣の別クラスに変わり、遊びほうけて忙しい私との交流はさほどなかった。優秀な彼は早稲田大学法学部に現役で入学した。

もう一人は「佐藤正廣」君で一年から三年までクラスが一緒だった。彼は卓球部にも所属して、細面の甘い表情と優しい話し方、華奢な体格で私よりはるかに女子にもてていた。個人的に何度か話したが、やはり現役時代にはそれほど親密な交流はなかった。彼とはお互い浪人生活に入ってから頻りに会うようになり、成城学園大学に隣接する世田谷区立砧図書館の所在を教えてもらったのも彼だった。彼をそれほど学業成績が優秀とは思わなかったが、全科目平均的に良かったから国立大学に入り、一方の私は浪人期間中も遊びほうけていて、真剣に学習しなかつたため、入学したのは滑り止めの私立大学だった。佐藤君は卒業して世田谷区役所に勤務していた。

大学一年の夏休み、佐藤君から自分の運転するオートバイ二人乗りで、那須に里帰りしている生田君の実家に遊びに行かないかと誘

われたことがあった。また東北自動車道などの高速道路ができる前で、狭い国道4号線を多くの運送トラックが走り、死傷率との別名もあつた幹線道路を3時間もかけて北上した。ヘルメットの着用も義務付けられていない上、左側に水路だったか、側溝だらけの国道をオートバイの二人乗りで走り続けた当時を振り返るたびに、よく事故に合わなかったものだと胸をなでおろす。

生田君の実家はお寺で、門の入口からバイクで20秒ほど走った奥に、本堂があり、住居は右側に隣接して建造されていた。疲れ切つてやつの思いで到着した時、お寺と住居を結ぶ渡り廊下に立ってにこやかな表情をたたえた生田君が出迎えてくれた場面が今でも脳裏に焼き付けられている。その夜は夕食をご馳走になった後、生田君の幼な友達を呼び寄せて、彼が覚えたての麻雀をお寺の本堂脇の部屋で深夜までした。麻雀は自分の手作りのみで場を読めず振り込むことが

多く、極めてへたくそだった。多読家で雄弁だった彼に、ある日「自分の言いたいことが言葉になつてうまく表現できない」と私が悩み事をこぼしたら、即座に「本を読まないからだよ」と言われてしまった。

その唯一無二の親友だった生田昭安君がリンパ腺癌という不治の病に侵されて亡くなったのは27歳という若さだった。腰の痛みが長く続いて体調不良を訴え、近所の病院で診断を受けても原因が分からず、紹介された築地の癌センターの精密検査で判明した。即座に入院して受け始めた抗がん剤治療や放射線治療の効果がなく、髪が抜け落ちるなど強烈な副作用に苦しみながら悪化する病魔と闘っていた。将来は弁護士か、お寺の住職か、まだやりたいことがたくさんあつたらうと惜しまれてならなかった。

生田君の亡き後、黒田原に佐藤君と二人で十数年ほど、毎年のように墓参りしていた。お寺の近くに彼の父親が建てたという別荘にも泊めてもらったことも

あつた。その彼と再び会つたのは50歳台後半だったろうか、年賀状のやり取りだけで交流が途絶えがちになつていった。生田家の法事で久しぶりに再会した後、手配してもらつたホテルに一緒に宿泊したのが最後だった。その夜に彼は自分の胸を開いて見せながら、最近心臓発作で倒れ、意識不明のまま病院に担ぎこまれた体験を話してくれた。確かに心臓マッサージ機の後か、胸の二箇所に赤い斑点がまだ残つていて一命をとりとめたようだった。でもそれから数年後に心肺停止で亡くなったという訃報を聞いた。その彼とも永遠に会えなくなってしまつて実に残念でならない。

寄稿

追悼 原康夫さん

瀧野日出雄・30期

原さんとは年齢も離れていませんし、特別に親密だったわけでもありません。同窓会の会合で挨拶する程度の関係でした。それでも、さやかながら思ひ出はあつて、そして何よりも桜修館の生徒さん達に原さんのことを知つてもうれしく思つて、惜越ながら追悼の意を込めて筆を取ることにしました。

今年2月、立ち寄つた本屋さんで偶然手にした本が『早すぎた男、南部陽一郎物語』でした。ノーベル物理学賞を受賞した南部先生の伝記です。驚いたことに、原さんのことが書かれていました。原さんはシカゴ大学の南部先生のもとで研究し、南部先生と共に共同でいくつもの学術論文を執筆していったのです。そんなことを知り、ご無沙汰もしていたのでメールでもご厚意立ったところ、わずか2週間ほど前に他界されていくことをネットで見ました。もう少し早くこ

の本を読んで、連絡していればと悔やみました。ところで都高時代に廻ります。ある日の生物の授業で、斎正子先生からこんな話をききました。「きみたちの先輩がニシナシヨウを受賞したの。この賞は物理学のとてもすごい賞で……」と、斎先生がうれしそうに話している姿が印象に残りました。それから年月がたち社人となつてから、筑波大学の先生の著書『トップクォーク最前線』を読みました。最先端の物理学の世界に感銘を受けましたが、著者のこと

は気にもとめませんでした。さて都高の閉校が決まつた頃から、同窓会の理事・評議員会が定期的に開催されるようになり、そこで3期の原さんと一緒にやるようになり、話されることから、物理学者かも？と思えて、同窓会名簿などを調べたりしていくうちに、わかりました。この方が『トップクォーク最前線』の著者であること。そして、その本の著者経歴欄に仁科賞受賞とありました。都高時代から今に至るまでが1本の線につながつた思いが

持つたものではと想像されている。その当時、外国に旅することが極めて珍しい時代になりながら、頻りに米国に行かれていたという噂を耳にした。否定を意味するときの、両方の手の平を上に向臨に広げるジェスチャーで、洗練されたコミュニケーション能力も身につけておられていたのではなからうか。あの頃にもどつて浅羽先生と英語で会話できないうちかと思つた。

一つあるとすれば、どの人の青春も一つや二つ、必ず悔いが残るものがあるはず、悔いのない青春といふものはないのではなからうか。ありえないことだが、仮に青春時代に戻れたとしても同じ失敗をしながら人生を繰り返すだけの話と思えてならない。過去を振り返り、あの時こうしておけば良かったと思つても愚問だ。どの年代にあつても、これからどう生きていくかを自分に関心していることが常に重要な、大切な後期高齢者の仲間入りした自分に言い聞かせているこの頃である。



私の手元にある原さんの著書。このほかにたくさんの物理学の本を執筆されている。

しました。理事会・評議員会での原さんはいつも温和で冷静沉着、要所所で貴重なコメントをされていました。この頃、すでに第一線からは返かれていましたが、市民講座で物理学を講義し、たぐさんの物理学の本を執筆されていました。また、ある学校での物理学の授業がNHKで放送された際、原さんから「見事な授業で

したね」というメールを頂いた記憶もあり、晩年でも物理学教育に対して情熱をもたれていました。最後にお目にかかつたのは都高閉校記念パーティーの時だったように思います。校歌斉唱のとき、すくなくにおられたので短い会話を交わしました。内容までは記憶にありませんが、たわいの無い話だったと思

知りました。原さんは素粒子物理学などで大きな業績を残され、物理学教育にも貢献されました。まことに「真理の探究」に力を尽くされたのだと思つた。桜修館の生徒さん達も是非この「真理の探究」の精神を持ち続けて歩んでもらえればと思います。末筆ながら原さんのご冥福をお祈りいたします。

# 同期会・クラス会レポート



**第16期G組クラス会**  
 日時：2023年9月9日(土)  
 場所：都立大学駅ひもの屋  
 参加者：11名

15時30分に桜修館中等教育学校記念祭の同窓会ルームに有志が集まり、その後4年ぶりのクラス会が開かれました。

11人の参加でしたが、和やかない会でした。各自の近況報告は相変わらず、体調の話、まめ、一番の関心事ですものね。松井君が、畑で育てたカボチャを

が手をあげてくれました。幹事一同、久しぶりに熱い高校生魂が蘇ったように感じました。全員一緒に写真撮影、会場の後片づけを終え、「次回元氣にお会いしましょう」で同期会は無事終わりました。  
 (行正龍昭・記)



**第22期D組クラス会**  
 開催日：2023年10月28日  
 場所：銀座フイオン渋谷マークシティ店  
 参加者：22名

長いコロナ禍を経て4年振りに令和5年10月28日土曜日、ハロウィン直前で賑わう渋谷のレストランにて第22期

## 第22期D組クラス会

開催日：2023年10月28日  
 場所：銀座フイオン渋谷マークシティ店  
 参加者：22名

長いコロナ禍を経て4年振りに令和5年10月28日土曜日、ハロウィン直前で賑わう渋谷のレストランにて第22期

(蓮井・記)

**第19期F組クラス会**  
 開催日：2024年5月30日  
 会場：トレント/渋谷 Stream Hotel  
 参加者：11名

卒業後、ほぼ初めてと言ってもいいクラス会を開催しました。コロナ前前の2019年10月のHCDの下準備のおかげで、今回のクラス会開催にたどりつきました。

## 第19期F組クラス会

開催日：2024年5月30日  
 会場：トレント/渋谷 Stream Hotel  
 参加者：11名

卒業後、ほぼ初めてと言ってもいいクラス会を開催しました。コロナ前前の2019年10月のHCDの下準備のおかげで、今回のクラス会開催にたどりつきました。

(岩崎高明・記)

同期会、クラス会が開かれなかったコロナ警戒期間を経て、今回ようやく何件かの報告を掲載出来ました。来年はさらに多くのレポートを載せたいものです。



担任の大石史子先生が寸前に出席できなくなったことは残念でした。小規模の集まりにはなりませんが、思い出話、近況報告で盛り上がりました。卒業後55年間、全く異なった人生を歩みましたが、3年間の都高生活が各々の距離を感じさせない会話を可能にしてくれました。  
 19期は昭和41年入学。男子200名、女子100名。現在73〜74歳。卒業式がなかった世代です。  
 (後宮邦彦・記)

# 同期会・クラス会レポート



**第4期「四回生の集い」**  
 開催日：2023年5月25日  
 会場：クラブ水交  
 参加者：16名

本会は名幹事だった野口貞義さんが亡くなられた後、存続が危ぶまれた。しかし、名簿の復元に同窓会の協力を得、会員の努力により、平成二六年に復活。以後毎年開催を続けてきた。以後毎年開催を続けてきた。二年から三年にかけてはコロナ禍により休会せざるを得ず、延期となっていた。令和四年にコロナ禍も収まる見通しだったので何とかが再開した。

なお、会員の高齢化に伴い、従来の「立食・バイキング方式・飲み放題」から「着席し暮の内弁当による会席方式、飲物も注文精算方式」に変更した。しかし、コロナ禍がまだ収束しておらず、参加者は十三名に止まった。その後令和五年五月二五日に「四回

生が集い(二〇二三)」を開催し十六名の参加を得た。コロナ以前は案内状数の約四分の一の参加があったが今回は五分の一と何とか復活してきた。細かいことを言つと、数えど満で年が異なるが大略八十八才に該当するの



に該当するの  
 で米寿の祝い  
 を兼ねて乾杯  
 し、続いて会  
 食歓談と進ん  
 だ。

細かいことを言つと、数えど満で年が異なるが大略八十八才に該当するの  
 で米寿の祝い  
 を兼ねて乾杯  
 し、続いて会  
 食歓談と進ん  
 だ。

西暦	開催日	場所	会費(円)	案内(人)	参加(人)	記事
2013						野口貞義氏逝去(4月30日)
2014	H26.5.21	つばめグリル	7000	108	34	集う会の復活、毎年開催に春の寂敷瑞宝中校章・八木信忠氏第1回野村胡堂文学賞・小中剛太郎氏
2015	H27.5.22	つばめグリル	7000	105	35	喜多迅先生逝去(9月28日)
2016	H28.6.10	クラブ水交	7000	102	32	斉会で再会(10月16日)に協力
2017	H29.6.17	クラブ水交	6500	100	29	メールによる案内、返信を併用採用
2018	H30.6.1	クラブ水交	6500	96	23	連絡辞退、住所・電話の非公開開始
2019	R1.6.7	クラブ水交	6000	91	24	文集(嗚呼西山の)案発表と原稿募集
2020	R2.5.9					コロナ禍により休会。文集完成(6/1)
2021	R3.5.28					休会
2022	R4.5.26	クラブ水交	5000	80	13	会場は今回から「ビーターハウス」に。着席し、暮の内弁当に変更
2023	R5.5.25	クラブ水交	5000	76	16	
2024	R6.6.6	クラブ水交	4000	70	14	予定

## 第11期同期会

開催日：2023年6月19日  
 会場：目黒パシモンホール  
 参加者：37名

同期会は2年ごとの開催で、2021年開催予定であったが、新型コロナウイルスにより2年待って、昨年6月、ようやく開催することができました。場所は母校敷地内に新しく建てられた目黒パシモンホールであり、駅からの登り坂がきつく感じるようになりました。同期会には海外2名を含む37名の同期生が参加され、和やかなひと時を過ごすことができました。久しぶりの同期会なので、「なるべく出席者みんなの声を聞きたい」ということで、全員にスピーチをお願いしました。時間オーバーが心配なほどの発言があり、お互いの現在の胸の内をじかに聞けたと思います。



高齡化やコロナリスクのことを考えると2年後の状況はさらに不透明となることが予想され、解散も覚悟で「引継ぎ」に臨みました。皆さんからは2年後もできる状況であれば「ぜひ継続を」という声もあがり、口火を切ってくれた方、協力申し入れの方などがあって、次期幹事としてサッカー部のT君

### 事務局インフォメーション

【表I】2023年度貸借対照表(財産目録)  
2024年3月31日現在

科目・摘要	金額(単位:円)
<b>1. 資産の部</b>	
現金及び預金	-
現金	-
みずほ銀行普通預金	921,042
みずほ銀行定期預金	5,006,832
ゆうちょ銀行当座預金	3,889,208
PayPay銀行普通預金	1,656,345
現金及び預金計	11,473,427
<b>資産計</b>	
資産計	11,473,427
<b>2. 負債の部</b>	
未払金(田中立替未払金)	20,837
負債計	20,837
<b>3. 正味財産の部</b>	
前期繰越正味財産	11,553,904
当期正味財産増減額	-101,314
正味財産計	11,452,590
負債・正味財産計	11,473,427

【表II】2023年度正味財産増減計算書  
2023年4月1日～2024年3月31日

科目・摘要	金額(単位:円)
<b>I. 経常収益</b>	
1. 受取会費	2,603,000
2. 寄附金	60,326
2. DVD等販売収入	1,500
2. 利息収益	100
経常収益計	2,664,926
<b>II. 経常費用</b>	
1. 会報費	
会報原稿作成費	176,000
会報印刷製本料	898,491
会報通信運搬費	989,489
会報費計	2,063,980
2. ホームカミングデー費	
懇親会費収入	-
懇親会費支出	-
案内送付先作成送付費用	-
会場等賃借料	-
HCD雑費	12,940
ホームカミングデー費計	12,940
3. 記念祭費	
通信運搬費	-
表彰金	100,000
記念祭雑費	-
記念祭費計	100,000
4. 経常管理費	
旅費交通費	5,140
通信運搬費	56,171
支払手数料	243,301
会議費交際費	232,332
消耗品費	11,814
雑費	40,562
経常管理費計	589,320
経常費用計	2,766,240
当期正味財産増減額(経常損益)	-101,314

監査報告:

財務諸表、帳簿、証憑等を精査し、上記決算書に誤りがないことを確認します。  
2024年5月18日

監事

栗原利憲

### 2023年度事業報告

2023年度は、5月の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、同窓会活動がコロナ以前の通常時に戻った年度でした。メール審議とオンライン会議を余儀なくされていた「理事・監事・評議員会議」も、上期・下期とも対面で開催出来ました。

会報は2023年6月30日にA4版16ページを発行。9,000部を印刷し国内外の会員に7,862部、恩師に149部送付しました。ほかに桜修館職員、生徒、PTAに300部配布しました。

名簿管理の現況ですが、住所判明会員の数は少しずつ減ってはいますが、減り方は鈍化しています。担当理事の努力とホームカミングデーの開催による掘り起こしで、新たな住所判明者も増えています。また5,600名余の住所不明者の中から逝去会員も判明しつつあります。ホームページのメールフォーム利用も増えています。

第75回記念祭は9月9日(日)・10日(土)の2日間、コロナ前同様に開催され、同窓会ルーム「八雲が丘の集い」を出展。旧制府立高以来の文物、写真の展示、歴史年表の掲出、学生歌・寮歌・記念祭歌のDVDを終日放映したほか同窓会員による学生歌・寮歌などの合唱イベントを行いました。(8・9面参照)

第11回八雲が丘賞は、躍進目覚ましい陸上競技部が受賞し、記念祭の閉祭式の会場で表彰式を行いました。(7面参照)

第7回「八雲が丘ホームカミングデー」は、11月11日に桜修館の「多目的ホール」で開催。第23期、第48期、桜修館第2期の皆さんが対象で、恩師3名を含む70余名と来賓、同窓会事務局を合わせ多数の参加をみました。歓迎式典後の校内見学は変わらず人気でしたが、残念ながら全員参加での懇親会は出来ませんでした。(2,3,4面参照)

八雲が丘学友会は、7月、11月、2024年2月の3回開催され、桜修館同窓会、学校、PTAとの情報交換が行われました。旧制府立高創立100周年記念事業などが議題となっています。

### 2023年度決算報告

2023年度は、10万円余の赤字決算となっています。収入に関しては前期比微増、約1300名の会員による会費納入と若干の寄付により266万円余です。

これに対して支出は、会報発行にかかる費用206万円が大半を占めています。ホームカミングデー費、記念祭費は若干の減少でしたが、記念祭費の表彰金は、八雲が丘賞の記念品代です。大幅に増えたのが会議費で、これはコロナ感染症が5類に移行したに伴い費用を伴う対面での会議が行われたことと、桜修館同窓会との連携強化のための交流会が初めて開催されたことなどによるものです。

会費収納に伴う支払い手数料が納入金額の9%を超えています。現状のコンビニ、ゆうちょをメインとする限り圧縮することは困難です。そのため今回、LINE Pay、PayPayによる納入を可能としました。16面の「会費納入の仕方」をご参照ください。

現在の同窓会の収支はほぼ均衡しているといっていると思えます。逆に言えば新しいことを始める余裕はないとも言えます。今後新たな試みを始めるためにも、会費納入会員1,500名=会費収入300万円、をぜひ実現したいと思います。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

### 事務局インフォメーション

### 2023年度の会議ほか

2023年	.....
4月25日	同窓会報制作関係者顔合わせ (木下デザイン、奥村印刷)
5月13日	2022年度会計監査
7月1日	上期「理事・監事・評議員会議」
7月1日	八雲が丘学友会
9月9日・10日	第75回記念祭
9月11日	第11回「八雲が丘賞」表彰式
10月9日	桜修館同窓会と合同オンライン会議
10月25日	ホームカミングデー幹事会
11月3日	同窓会オンライン会議
11月11日	第7回「八雲が丘ホームカミングデー」
11月18日	八雲が丘学友会
11月19日	桜修館同窓会と懇親会
2024年	.....
1月27日	下期「理事・監事・評議員会議」
2月17日	八雲が丘学友会
3月2日	同窓会報編集委員会
5月18日	2023年度会計監査

### 「八雲が丘文庫」への著書の寄贈についてお願い

桜修館の現役中学生・高校生に是非読んでもらいたい著書をご寄贈ください。

- 寄贈を受ける著作は書籍のみといたします。
- 同窓生ご本人、または恩師ご自身の著書を2冊までとさせていただきます。

ご寄贈いただいた著書には、表紙に右のような「八雲が丘文庫」のステッカーを貼付して、生徒の閲覧に供します。



寄贈書籍は下記までお送りください。

〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2  
桜修館中等教育学校内「八雲が丘文庫」担当

### 再度、合唱サークル発足について

昨年のこの会報で合唱サークルの発足についてお知らせしましたが、実はまだスタート出来ておりません。

参加を希望される同窓会員の数が少なく、練習会場や練習の回数などが決められないでおります。既に申し込まれた方には大変失礼してしまいましたが、さらに申し込み会員を増やし、指導にあたっていただく佐藤文行氏(17期卒、二期会会員)と、サークルの運営など全員で検討しながら、進めてまいります。

● 参加ご希望の方は、同窓会事務局までご連絡ください。

### 創立100周年記念事業・寄付募集開始

5年後の2029(令和11)年は、私たちの母校の前身・府立高等学校の創立から100年の年です。府立(都立)高等学校、都立大学附属高等学校、桜修館中等教育学校と、3校が連なる100年の歴史を振り返りながら、100周年記念事業を成功させたいと思います。

記念事業の詳細は未定ですが、「100年史」の刊行、記念式典、記念講演会の開催、記念品の制作、記念映像作品の制作などが考えられています。これらの実施にあたっては、八雲が丘学友会(3校同窓会の連合組織)の財産を中心に、東京都の予算、同窓会、およびPTAからの寄付などで経費をまかないます。記念事業成功のため、ぜひご寄付をお願いいたします。

### 【寄付受け入れ口座】

みずほ銀行 都立大学駅前支店(店番号133)

普通預金口座番号 1334444

名義 ヤクモガオカクユウカイ(八雲が丘学友会)

ご寄付入金の際は、氏名の前に「卒業期・クラス」を入れてください。

(例 = 13Aトリツハナコ)

旧制府立・都立卒業の方は、氏名の前に「フ」または「ト」と卒業年を入れてください。

(例 = フ19フリツタロウ、ト23トリツジロウ)

### 3校のこれまでの軌跡

1929(昭和4)年	7年制の「府立高等学校」開校。専科80名、高等科160名。初代校長・川田正激。
1932(昭和7)年	八雲が丘の新校舎完成、移転
1935(昭和10)年	校歌「嗚呼西山の」制定
1943(昭和18)年	生徒出陣、勤労動員、南寮・北寮開設 戦中最後の記念祭。校名「都立高等学校」に 敗戦、グラウンドは畑に
1945(昭和20)年	専科科が都立新制高校となる。
1948(昭和23)年	校旗、校歌、校章は新制高校が継承
1949(昭和24)年	高等科が「東京都立大学」に。都立新制 高校は「東京都立大学附属高等学校」となり、 女子20名募集、男女共学となる
1950(昭和25)年	旧制「都立高等学校」開校。
1952(昭和27)年	1学年3学級、定員150名
1963(昭和38)年	鉄筋コンクリート4階建て校舎完成(現在のB棟)。
1964(昭和39)年	1学年6学級(男子200名、女子100名)
1967(昭和42)年	学校群制度実施、広尾・目黒と共に23群 第一次学園紛争。第19回卒業式中止。
1969(昭和44)年	以後8年間卒業式はおこなわれず 定員男女同数(男子女子とも135名)に グループによる合同選抜方式の入試に
1974(昭和49)年	都立大学、八王子南大沢に移転
1982(昭和57)年	都立大学を中核に「首都大学東京」発足
1991(平成3)年	「東京都立桜修館中等教育学校」開校、 1学年4学級定員160名。
2005(平成17)年	「東京都立大学附属高等学校」開校、61期生が 卒業。校旗、校歌、校章は桜修館が継承
2006(平成18)年	桜修館第1回卒業式、1期生150名卒業 首都大学東京を「東京都立大学」に改称
2011(平成23)年	桜修館第13期生卒業、第19期生入学
2012(平成24)年	
2022(令和4)年	
2024(令和6)年	



事務局インフォメーション

年会費 2,000円 納入のお願い

LINE Pay、PayPayでも納入していただけます  
 今回納入をお願いするのは2024年度の会費2,000円です

※3年会費5,000円と終身会費は廃止されています。  
 次の方は、納入していただく必要はございません。

- ①特別会員の先生方
- ②かつて終身会費30,000円を納入された方

< 会費納入の方法 >

- ゆうちょ銀行、コンビニでの納入  
 同封の払込取扱票をお使いください。
- LINE Pay、PayPayでの納入  
 LINE、PayPayともID: todaifu1948  
 IDの検索後、それぞれの方法で送金してください  
**LINE Pay**  
 友達追加➡卒業期と指名をメッセージ送信➡送金  
**PayPay**  
 送金時に、メッセージに卒業期と氏名を入力  
 どなたでもLINEの友達登録をお願いします
- 銀行振込での納入  
 PayPay銀行(旧ジャパンネット銀行) すすめ支店(002)  
 普通預金 6271398  
 トウキョウトリツダイガクフゾクコウトウガッコウドウソウカイ  
 ATMからの振込およびネットバンキングご利用の場合は、  
 振り込人の名前の前に卒業期・クラスを入れてください。

同窓会への連絡方法

住所の変更、訃報、その他の同窓会への連絡は  
 下記のいずれかの方法でお願いします。

- インターネット  
 同窓会のホームページを開き右下の「Contact us」  
 ボタンをクリックするとメールフォームが出ます。
- 郵送  
 〒152-0023 東京都目黒区八雲1-1-2  
 都立桜修館中等教育学校内  
 都立大学附属高等学校同窓会  
 または  
 〒152-0002 東京都目黒区目黒本町4-23-6  
 六戸方 都立大学附属高等学校同窓会事務局

同窓会報  
 編集委員会

- 13期 戸内 由武
- 14期 川田 秀文
- 26期 嶋津 和行
- 35期 石川 恵子
- 43期 田中 聡美
- 45期 手塚 健一

第7回「八雲が丘ホームカミングデー」は、対象期を担任いただいた3名の先生方も参加され、楽しい時間となりました。年代の大きく異なる3世代が一堂に会するという独特のホームカミングデー、今後に期待大です。  
 桜修館の副校長先生がお二人交代されました。お世話になった前任の横山先生、松本先生にお礼申し上げることも、新任の吉職先生、島田先生にはよろしくと申し上げます。  
 年会費の納入が、LINE Pay、PayPayでもできるようになりました。ぜひ活用いただき、同窓会の活動充実にご協力をお願いします。年会費は2,000円です。  
 来年も会報の原稿締切りは4月30日です。多数の原稿をお待ちしています。



編集後記

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます

英語	山際 巖先生		2023年1月26日
国語	滝沢公明先生		2023年4月16日
期・組	姓名	旧姓	
2A	吉松 安弘		2023年12月27日
2B	宮川 澄夫		2022年5月8日
2C	吉田 泰三		2022年8月11日
2C	渡辺 栄		2022年7月18日
3A	原 康夫		2024年2月13日
3A	小西 敏子	北	2023年11月21日
3C	片岡 滋		
4A	田村 啓介		2023年3月30日
4B	都築 暢之		2022年12月18日
4B	山屋 敬介		2022年12月14日
4B	松下 治子		2023年10月10日
4C	澤井 秀樹	柏原	2022年9月6日
4C	山崎 光郎		2023年5月25日
5A	小川 泰		2023年10月25日
5A	大塚 松郎		2023年6月13日
5A	白井 恭博		2022年7月28日
5A	富永 滋		2021年9月12日
5A	山口 知也		2021年8月
6A	桑原 信		2023年7月
6A	町野 和子	黒沢	2020年12月
6B	高嶋 俊幸		2020年
6B	喜多 元子	桐村	2024年2月7日
6C	久貝 徹		2022年9月16日
7B	三木 靖		2023年11月17日
8B	佐柳 文男		2022年3月6日
8C	丸山 明子	遠藤	2021年11月28日
9A	池 央耿		2023年10月27日
9A	玉真 秀夫		2023年1月8日
11C	長崎駿二郎		2021年11月20日
12C	鈴木 将美		2023年12月19日
14C	栗原 祐一		2024年1月25日
15A	坂上 隆一		2022年6月19日
15C	立川 情治		2023年
15C	松井諒三郎		2023年2月5日
16A	原田 裕弘		2022年12月3日
16B	山本 弘夫		2022年8月27日
16G	千葉 斉		2019年11月26日
16G	山根 勇		2020年3月19日
16G	古川 晶子		2022年4月13日
17F	伊東 輝行		
17F	佐藤 正廣		
17F	山本真知子	中山	
18F	広田 陽子	伊藤	2016年1月21日
19C	水野 実		2008年11月
21A	新美 緑	白石	2023年6月6日
22B	依田 純子	鷺山	2024年3月9日
22C	小瀬 敏		2023年10月
22C	鎗田 智経		2022年6月24日
23A	梅ノ井紀子		2009年
23B	中田 一彦		2021年9月5日
24A	明石 政紀		2022年10月13日
24B	関 正紀		2019年1月
27A	岡田 晴道		2023年5月
28A	富澤 勉		2019年3月20日
30A	宮田 麻緒		2010年
33B	大久保 朗		2022年8月15日
43B	後藤 克爾		2024年3月27日

同窓会事務局に連絡のあった方のみ掲載しています